

(2) 相談者の内容別延べ人数

年度	内容別						計	
	知学	能業	性行	格動	身休	進路		教一
昭和52年度	178		642		146	19	77	1,062

(3) 相談者の地区別延べ人数

地区別	県北	県中	県南	会津	南会津	いわき	相双	計
相談者数	810	191	12	38	0	9	2	1,062

(4) 教育相談の現状と課題

教育相談の来談件数が急上昇していることは、本来あまり望ましいことではない。しかし、教育相談の重要性が認識され、子供の心にまで目が向けられてきた結果、増加につながってきているのととらえれば、それなりに、大きな意義を認めることができる。

種々のケースを扱って感じられることは、家庭における親の役割意識のゆがみに起因すると思われる問題がおきていることである。

その一つは、母子間の心理的距離が近すぎて、密着化されていることであり、家庭生活の合理化・スピード化により、余暇のありすぎる母親は、とかく完全主義に傾き易くしたがって、過保護、過干渉かつ拒否的に陥り易い傾向がみられることである。

二つめは、元来、父親は理性や社会的しつけの面で家族に対し、強い影響力を持つものである。またしつけは親から膚を通して浸透されていくべきであるのに、父親が家庭の中で、家族の精神的支柱になっていない例がみられる。そのため子供の自己適応を含めた、人格形成に重要な役割を果たしていない結果になっていることが多い。

学校等においては、表出した問題行動解決のための相談活動にのみ走ることなく、日常的な心と心のふれ合いをたいせつにし、理解のし方も、表面的でなく、その背影を洞察するように務めなければならない。

第5節 教育資料

1 教育資料の収集・整備

教育に関する専門図書、及び教育資料のセンター的な機能を果たすよう努力してきた。当センターにおける研修、調査・研究、相談事業の充実と、県内各学校の教育実践、教師の研究活動をいっそう推進するため、教育図書及び教育資料の収集・整備に努めた。

(1) 教育図書・教育資料の収集・整理・保管

教育図書は、本年度 618冊の増加を図ることができ約 16,424冊の蔵書数となった。

教育資料については、全国各教育機関や研修機関等の紀要、研究報告書、及び県内各学校の研究物等の収集で 616冊を得た。

教科書については、本年度教科書展示会に出品された中学校教科用図書と高校の教科書 200冊が収集できた。

教育関係定期刊行物（月刊誌等）は、購入及び寄贈により70点が常備できた。

これらの整理は、図書についてはNDC、教育資料は原則として、都道府県指定都市研究所長協議会が作成した、「教育資料分類基準」により分類し、配架した。

(2) 教育図書・教育資料の利用

本年度の利用者は、研修生をはじめ県内教職員と学生等利用者は、延べ約11,000名であった。

教育資料については冊数の制限はないが、教育図書は1回に2冊、3週間を限度として貸し出してきた。

(3) 教育センター所報の発行

県内各学校の教育実践の資料、研究の情報を提供するため、当センターにおける研修、調査・研究、相談事業の成果を中心に編集し、第31号～第35号を刊行して、県内公立小・中・高校に配布した。

2 教育資料の刊行

(1) 学校経営改善に関する研究

学校経営の中の学年経営に関して、学年会・学年主任の組織、内容、運営方法、教育目標との関連、学年経営の問題点と改善の方策について述べた。

(2) 教科における学習能力の発達と授業に関する研究

児童・生徒の学習能力が、授業を進めていく中でどのような形成過程をとるかを究明するために、従来の学習方式を生かしながら、指導のたしかめをどう行い、どのように生かすかという観点から研究した。

内容は次のとおりである。

- 小学校国語科・社会科を対象とした。
- 前提となる能力と、学習過程での子供の反応に即した指導の方策の研究
- 授業における学習状況とつまづきの診断

(3) 福島県診断標準学力検査問題に関する報告書

本県の小学校第6学年終了時における国語科、算数科の学習到達の実態を把握するため、中学校1年生を対象として調査した結果をまとめたものである。

主な内容としては次のとおりである。

- 領域・分野における得点や誤答傾向から、各領域ごとの理解の状況を知り、思考の様相を診断的にとらえた。
- 本県児童の現有力の問題点から、今後の学習指導改善の手がかりとなる資料である。

(4) 教育相談の基礎的研究報告書

教師の教育相談はどのような態度で、実践されているか具体的な状況を知るため、まず「スクール・カウンセラー・テスト」を自作し、このテストを当教育センターの各種講座の受講生等 700人を対象として、反応の実態を把握することになり、教師の教育相談に取り組む態度の概要をとらえた。

本調査研究は、とかく教えよう教えようという意識が先に立ち、育てて行こうとする心のゆとりや、態度の少なさがあるといわれている現代の教師に、相談的姿勢を確立するための基礎資料としてじゅうぶん役立つものと考えた。

(5) 学習指導に関する紀要の刊行

県内各学校における学習指導の改善・充実の資料として